

28 英国医史における学と職と

——法制的考察

栗本 宗治

イギリス近代医史における個人アイディアの流れについての考察（医譚五四号、一九八五年）について、学問と医職との歩みの法制的考察を述べる。

三つのエポックが指摘される。その一、一六世紀チューダー朝におけるロイアル コレジ オブ フィジシヤンズ設立にみられる医職の法制的確立、患者医師関係の明確化。その二、一八世紀ボランタリ ホスピタルの動きにおける病院医師の診療職制の整備。患者は病院内にあってその診療責任をもつ医師が明確であること。その三、一八〇〇年ロイアル コレジ オブ サージヤンズの設立。医職のなかにあってフィジシヤンズとサージヤンズとのステータスの差はなくなった。以上の三エポックである。

欧州大陸先進国に医師のコレジが結成されていたことは、リナカ（二四六〇—一五二四）、キース、ハーヴェイなど知るところで、ヘンリ八世メデイカル アクト一五一一ならびにコレジ オブ フィジシヤンズ設立のチャーター勅許一五一八はリナカらの進言によった。学と職との竝立関係はその後イングランドにおいて次第に確立された。大陸の場合医師のコレジは衰退した。学職両輪関係は近代英国社会において法制的にもモデル的役割をなすことが注目される。

大陸の大学医学部は当時オクスブリジのそれにくらべ強力で、医学部と似たものともとれるコレジは圧排されるところとなった。

オクスブリジとロンドンのコレジ オブ フィジシヤンズとの関係において医職のコレジは当初からファカルティと区別された。先ず試験に合格すること、合格者をもつてコレジを組織すること、一言で云えば一貫してそれはインディペンデント、職の試験機関であった。このことから患者医師関係を法制的に明確とすることが容易となった。

パドウアに病床教育ベッドサイドテイチングが行われた。ライデンに伝わり、ブルーハーヴェ教授一七一四によつて一般となつた、いわゆる六床病棟である。ライデンの影響は聖トマス病院のミード、エディンバラ、さらに新大陸におよんだ。コレジのメンバー資格ならびに当該病院の資格をみだす医師は女性患者六床と男性患者六床の計一二床の診療責任をもつこと。この診療単位に未資格修業中の医師・学生が配属されて学ぶ、すなわちベッドサイド ティーチング教育単位でもある。

シテイとウエストミンスターとの中間に、中世からリンカンズ イン、テンプルなどのインズ オブ コートが存在した。オクスブリジの法学部に竝立してロンドンにおける法職のコレジといえる。ヘンリ八世の宗教改革僧職教育改革は、ついで法職改革そして医職改革におよんだ。裁判に呼ばれるコールされるバリスト法廷弁護士はこのインズオブコートに住みこみ試験をパスして資格をえ、そのインに属した、今日もそうである。ハーヴェイの交友ジョン セルデン(一五八四—一六五四)は法実務から法制史の研究に進んだ。ケンブリジ法メイトランド

教授によつてセルデン協会は発足した一八八六年。

ハーヴェイは帰国後コレジ試験に合格して資格をえた、ケンブリジ卒医師トマスボナムは不合格であったが大学卒者という例外則をもつて医業をつづけ、コレジの叱責するところとなつた。職において服すべきはいずれの権威か、ボナム判例一六一〇は法学生が学ぶところである(日本医史学雑誌三四巻二号一九八八年)。

今、英国は欧州大陸との協関係を進めるべく法改正をつづける、医も例外でない。職の規範は倫理に近い。学と職との両輪関係は有用な制度とみなされて、ヨーロッパにおけるモデルとなるか、注目される。

コレジ オブ サージョonzに關しては紙面のつごうにより略。

(大阪医科大学)